

新春特別対談

菊間潤吾 JATA副会長 & 金正洙 大韓航空 日本地域本部長

復活へのキーは「ビヨンド・ソウル」 日韓路線拡充で地方発需要の底上げに期待



菊間潤吾 JATA 副会長



大韓航空の金正洙 日本地域本部長

1カ月後に迫った韓国での平昌オリンピックは、2018年の海外旅行市場でスタートダッシュの起爆剤となることを見込まれています。また、今月18日には仁川国際空港に新しい第2ターミナルがオープンする予定で、ビヨンド・ソウルも含めて日韓路線の拡充を通じたアウトバウンド需要の底上げも期待されることです。本格的な海外旅行の復活に向けて、外国航空会社としては日本発路線で最大規模の座席供給と就航路線を誇る大韓航空の金正洙（キム・ジョンソ） 日本地域本部長とアウトバウンド促進協議会会長を務める菊間潤吾 JATA副会長に、2018年の展望を語り合っていました。

平昌五輪を機に反転上昇の流れを

——2月9日に韓国・江原道の平昌で開幕する第23回オリンピック冬季競技大会まで、約1カ月となりました。日本のアウトバウンド市場活性化に向けて、平昌オリンピックへの期待をお聞かせください。

金 日韓の両国における双方向交流で見ると、全体で約556万人を数えていた2012年当時、韓国への日本人旅行者が約6割、日本への韓国人旅行者が約4割でした。2017年には、全体で約900万人を超える規模に拡大したとみられるものの、日本を訪れた韓国人旅行者が約75%、韓国を訪れた日本人旅行者が約25%、大きく逆転する状況となっています。今回の平昌オリンピックでは、少なくとも期間中は日本人旅行者の割合が大きくなるのではないかと予想していますし、オリンピック後も

そうした流れが強まっていくことを期待しています。

菊間 韓国への日本人旅行者数は2012年の約350万人をピークに減少傾向に転じ、その後はピーク時の規模に戻っていません。われわれの目標である日本人海外旅行者数の年間2000万人を達成するためにも、韓国旅行の復活は一番の近道となるはず。何としても韓国を訪れる日本人旅行者を増やす必要があり、平昌オリンピックを起爆剤にしなければ、と考えています。オリンピックの開催を通じて、日本のテレビなどでも韓国の露出が増えるでしょうし、韓国の実態がどうなっているかということも、日本の皆さんに良く分かるようになるのではないのでしょうか。

最近では、色々なニュース報道などで韓国旅行に対する懸念が続いており、旅行需要の回復が進まない一因ともなっています。日本から大型の選手団や大勢のメディア関係者



海外旅行の本格復活に向けて固い握手

が現地へ行ったり、たくさん的一般旅行者が韓国を訪れることで、ネガティブなイメージが払拭され、懸念されるような状況ではないことが口コミで広がっていけば、旅行会社にとっても大きな追い風になるのではないかと思います。

金 平昌オリンピックの前に、首脳会談の開催などを通じて日韓両国間の政治関係が改善される可能性も出てきていますし、日韓の友好ムードが広がってくれば、平昌オリンピックの期間中だけにとどまらず、五輪閉幕後も、双方向交流の拡大が継続していくだろうと確信しています。

菊間 五輪閉幕後のことを考えると、江原道自体も観光資源が非常に豊富で、オリンピック開催を契機にソウルや仁川から韓国高速鉄道も運行されるようになったので、今まではほとんど商品化されていなかったソウルの北や東の地域で観光開発が進めば、文化的な素材や自然の魅力なども発信され



1月18日にオープンする仁川国際空港の新しい第2ターミナル (仁川空港公社提供)

ていくでしょうから、五輪後にも日本人旅行者がたくさん行くようになるだろうと考えています。

仁川国際空港で新ターミナル開業

——地方市場の活性化という面で、デスクティネーションとしての韓国や日韓路線の位置づけをどのようにお考えですか。

菊間 海外旅行者数を増やすためには、地方における海外旅行需要の創出が重要であり、国内の大都市に充実した路線を展開している大韓航空は、非常に有り難い存在です。アウトバウンド促進協議会としては、大韓航空を利用した韓国への旅行商品



曲線的なデザインと自然採光が印象的な第2ターミナルの出発フロア (仁川空港公社提供)

開発だけでなく、乗り継ぎの利便性も高い仁川国際空港からの以遠路線も活用して、地方空港からビヨンドソウルの旅行商品を積極的に造成していくべきだろうと考えています。仁川国際空港での同日コネクションで行けるデスクティネーションは非常に多様で、地方から世界中の色々な場所へ行ける環境は積極的に活用しなければなりません。先日、北海道で旅行会社の皆さんに集まっていたいただき、ビヨンドソウルの旅行商品開発についてセミナーを開催しましたが、各地で同様のセミナーを行っていきたくと考えています。

金 おっしゃる通り、仁川国際空港からの国際路線網では日本の航空会社よりも海外の就航都市が多いので、ぜひ、積極的に活用していただければと思います。日本の地方都市への路線については、採算的に厳しい状況もありますけれども、だからといって安易に減便したり運休したりせずに、日本人旅行者による訪韓旅行の底上げやビヨンドソウルの需要開発を進めることで、逆に、増便や新規路線の開発を検討できるような

に努力しているところです。

特に、ビヨンドソウルの需要開発ということでは、1月18日に仁川国際空港の新しい第2ターミナルがオープンする予定で、スカイチームに加盟している大韓航空、デルタ航空、エールフランス航空、KLMオランダ航空の4社が第2ターミナルに入ることになっていきますから、素晴らしい施設環境の中でビヨンドソウルの路線を活用した商品造成や需要開発を促進していきたいと考えています。

菊間 第2ターミナルのオープンを通じて、仁川国際空港の年間利用旅客数を世界最大となる1億人とすることを目指すのですが、欧米などのロングホールのデスクティネーションだけでなく、インドやネパールなど日本人が行きやすい中距離路線も充実しているため、今後の展開が非常に楽しみです。旅行業界としても最大限に活用できるように努力しなければなりません。

2018年は海外旅行者数1900万人に

——アウトバウンド市場全体を底上げするという観点からも仁川国際空港への期待は大きい。

菊間 現在、確実に伸びている分野としてビジネスクラス使いのレジャー需要がありますから、米国などの長距離路線で地方空港発のソウル乗り換え需要を掘り起こすなど、価格訴求ではない形の新しい市場も創出できるのではないかと考えています。大

韓航空としても、日本市場でビジネスクラスをもっとアピールしていただきたいと思えます。さきほども言ったように、日本からの直行便が飛んでいないデスクティネーションも少なくありませんから、地方空港からは成田空港を経由するよりも仁川国際空港を経由する方が利便性の高い地域もあるはずです。

金 大韓航空では、青森や鹿児島、新潟などの路線で増便を行っていますが、利用できる曜日が増えたことで、成田空港から路線が就航している都市でも、仁川国際空港からの大韓航空便に注目していただけるようになってきており、ビヨンドソウルの需要開発に向けて、その可能性と手応えを感じています。

菊間 昨年の日本人出国者数は1800万人をクリアしたものと見込まれ、2018年は1900万人に迫る規模にまで市場を拡大し、2020年を待たずに年間2000万人を達成しなければならぬと決意を新たにしていますが、その道筋を確かなものとするためにも、デスクティネーションとしての韓国の復活と日韓路線におけるビヨンドソウルの開発にも注力しなければなりません。

金 大韓航空としても、就航50周年を迎える東京ソウル線を中心に、地方路線のネットワークも最大限に活用していただき、JATAが目指す海外旅行復活と2000万人達成に貢献することができればと考えています。